



## 第6回

# 越前一向一揆 村岡山城

(福井県勝山市村岡町寺尾)

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は勝山市の「勝山」の名前の由来となった<sup>むろこやまじょう</sup>村岡山城を紹介します。天正4年(1576)一揆軍が平泉寺に勝利した村岡山を「かち山」と呼び、同8年村岡山の城主であった織田軍の柴田勝安(のちの勝政)が袋田に居城を移すのを機にその地を「勝山」と称しました。村岡山(御立山、301m)は谷峠を越えて勝山と加賀の白山麓を結ぶ交通の要衝にある独立丘陵で、七山家の一揆勢が築城したとされます。



主郭虎口と周囲を巡る横堀

一方勝山市史では、越前を支配した朝倉氏が最初に村岡山に築城したとしています。天正元年(1573)8月、朝倉義景は織田信長に滅ぼされ、朝倉一族で織田信長に寝返った景鏡は平泉寺に身を寄せます。翌2年2月28日、加賀・越前の一向一揆に北袋の一揆勢が合力して平泉寺と九頭竜川で一戦交えるが、敗れて北袋の一揆勢は檀ノ城に籠城しました。平泉寺は村岡山を物見砦にして檀ノ城の一揆勢を監視しました。同年4月14日、南袋(大野)、北袋(勝山)、七山家(小原・木根橋・谷・合・六呂師・杉山・中野侯)の一向一揆が合議して、その日の夜に七山家の一揆勢が村岡山を占拠して城を築き始めると、翌朝そのことに気付いた平泉寺勢が景鏡を大将に攻め寄せました。村岡山の一揆勢が激しく応戦している隙を突いて、本覚寺が率いた別働隊が平泉寺に直接攻め入りて焼亡させ、この奇襲に混乱した平泉寺勢を追撃するなかで景鏡は討死しました。翌3年8月越前に進攻した織田軍により国中の越前一向一揆は次々と掃討され、越前領主となった柴田勝家は村岡山城を前線拠点として甥の義宣の居城としました。その義宣が七山家の一揆勢に谷城付近で打ち取られると、養子の勝安が次の城主となり同8年袋田の勝山城に居城を移すまで使用されたと考えられます。

朝倉氏、平泉寺、一向一揆、織田(柴田)軍と4勢力が築城に関わった縄張は、細尾根を何重もの堀切で遮断している西側曲輪群と斜面に畝状空堀群を伴って巧みに敵軍を誘導する虎口が築かれた東側曲輪群、そして深い横堀が巡り隅に櫓台を持つ主郭が築かれた中央部と、それぞれに魅力ある遺構が残っています。草枯れの晩秋または雪解けの早春に行けばいずれの遺構も見やすくて良いかと思えます。

主郭直下南の曲輪からは勝山中心部の平野を、西側先端部の曲輪からは志比方向の九頭竜川沿いを、主郭からは野津又城方向の大日峠を越える街道口を見下ろすことができます。この村岡山を巡って攻防が繰り広げられ、勝山の地名の由来となった山城に歴史好きならウキウキすること間違いなしですよ。

参考資料  
「越前中世城郭  
図面集Ⅰ  
越前北部編」

「勝山市史  
第二巻  
(原始～近世)」

現地案内板 他



西端の曲輪から安波賀街道沿いを見下ろす



東側斜面に集中して構築される畝状空堀群